

地域連携講座 県央地域

監修

光の家療育センター

施設長 鈴木郁子 氏

講師の皆様

埼玉県立小児医療センター 精神科 舟橋敬一 氏

埼玉県立小児医療センター 保健発達部 作業療法士 岡田洋一 氏

児童発達支援センターこころ園 責任者 間中 充 氏

北本市 健康推進部 健康づくり課 川西恵子 氏

鴻巣市 こども未来部 子育て支援課 家庭児童相談員 芹川知世 氏

愛泉こども家庭センター 相談員 谷田清美 氏

北本市立栄小学校 指導担当 岩渕拓也 氏

県央地域療育センター 臨床心理士 石川有美 氏 作業療法士 細井 紀久子 氏

監修：県央1

- 県立小児医療センターの舟橋先生からは、児童精神科医のお立場から、自閉症圏、ADHDの病気の説明だけでなくライフサイクル、また、現れる症状面からの大変わかりやすいご説明がありました。
- 県立小児のOT岡田先生からは、OTについての説明から、実際の治療場面を示していただき。OT場面での刻々と変化する子どもへの評価、治療の実際を説明いただきました。
- 児童発達支援センターこころ園の間中先生から、園の1日の流れ、マカトンなどを使用し指導例、1年の主な行事などのご説明がありました。卒園式の親御さんの表情が印象的でした。

監修:県央2

- 鴻巣市子育て支援課の芹川先生より家庭児童相談員の業務内容についてご説明がありました。鴻巣市特有の事業である5歳時健診や、こころの健康相談など保健センターや教育センターとの連携していることが良く解る内容でした。最後に親の気持ちについてのご説明からも鴻巣市の発達障害について関わりの強さを感じました。今後とも強い味方であってください。ありがとうございました。
- 北本市健康づくり課の川西先生からは保健センターの事業説明にの後、2歳児育児相談やコアラ教室の説明があり、発達障害についてよくやられているという印象を持ちました。発達障害について保健センターが関わる時期としては、親御さんも非常に微妙な時期ですので、北本市のように力を入れて頂けているのはありがたいことです。
- 愛泉こども家庭センターの谷田先生からは、こども家庭センターの取り組みのご説明がありました。発達が4割、土日の相談が増えているなど実態のご説明もありました。権利とバランスを取りながら、気持ちを聞き、孤立させない工夫という言葉が印象的でした。専門家が言う「様子をみましょう」の言葉の意味の重さについても問題提起されました。

監修：県央3

- 北本市栄小の岩渕先生からは、通級指導教室についてのご説明がありました。子どもが起こす問題行動は氷山の一角で、見えないところの問題を考えていくという指導の姿勢は大事な点だと共感しました。また、連携についても1専門性2役割の明確化3計画的支援(目的意識の共有)のキーワードを示していただきました。普段から発達特性の児童への支援を実践されている事がよくわかります。
- 県央地域療育センターの石川先生、細井先生からは、地域療育センターの事業内容の説明がありました。その中でアセスメントについてのご説明がありましたが、大事な点をしっかり実践されていることがわかり質の高さを感じました。また、「親が変われば、子が変わる。子が変われば、親が変わる」お話も貴重でした。

監修：県央4

- ・本日の研修を受けていただき、それぞれの機関が前向きに独自の事業を展開していて県央地域の資源の質の高さを感じました。たくさんの職種についてまず理解していただき、そのうえで皆様が今、気になっているお子様、ご家族の支援のためにどここの点でも構わないので、つながっていただき、点が線へ、線が面になっていくことを願っています。本日の講師陣からは、皆様のお住まいの地域の文化度の質が強化されていくことが確認できました。

ありがとうございました。